



敬 頌 新 禧

院長 橋本 大定

明けましておめでとうございます。皆様にとりましても、今年は素晴らしい年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

振り返り見れば平成19年、20余名もの医師を引き挙げ、市民病院は常勤医ゼロの非常事態を迎えました。病棟閉鎖に続き手術部閉鎖と、14億もの累積赤字で、病院崩壊の危機の真ただ中で、岡部市長は、指定管理制度（公設民営）による再建を選択されました。

平成20年、たった一人の常勤医として着任された初代院長福光正行先生は、病院のIT化（完全電子カルテ化）、血液透析、糖尿病・腎センターの開設、地域医療連携室並びに健康管理センターの機能強化を図り、病院再建を着実に進められ、平成25年には日本医療機能評価機構の認定が取得されました。

西暦1989年、我が国では、昭和時代が終わり、平成の世が始まりました。ちょうどその時期を境として、世界の外科学は「大侵襲手術」から「低侵襲手術」へとコペルニクスの転回を遂げたのです。以来、有り体に言えば、「大きくは切るが確実に治す手術」から「小さな傷で危険ではあるが痛くない手術」への追求が、わが国でも怒涛のように進んでいるのです。

私は昭和43年、大学紛争の最中に医学部を卒業し、今日まで、都会の一勤務医を続けてきました。前半四半世紀は、「大侵襲手術」の修業を重ねましたが、平成の四半世紀は、「大侵襲手術」から「低侵襲手術」へのコペルニクスの転回の狭間で、「低侵襲手術」の安全性と確実性を高めるために、機器の開発と術式の考案を進めてまいりました。欧米式の「腹腔内を高圧に保つ気腹法による腹腔鏡手術」を否定し、「平圧下で行う安全で安心な腹腔鏡手術」を構築、「小切開・鏡視外科学会」を創設し、代表理事も務めてきました。

爾来、「大侵襲手術」と「低侵襲手術」の狭間に生きた経験の全てを活かし、手術のプロとしてだけでなく、病院そのものの手術にも取り組む中で、ついに今年度、我が市民病院が、全国的にみて、極めて稀な、奇跡の病院再生を迎えることになるかと密かに矜持を禁じ得ません。

さて、私の専門とする消化器外科の分野では、食の欧米化に伴い、大腸がんが胃がんを抜き死亡率の第1位を占めるようになりました。また、高齢になるにつれ身体のあらゆる部位から様々ながんが発生し、その発生頻度も高まります。一方、佐野地区の大腸がん検診率は20%前後と全国的に見ても低く、5人中4人は、大腸がん検診を受診していない状況の中で突然患者が市民病院を訪れ、進行がんの手術を受けることになるのが多いのが問題なのです。

苦勞して切除手術に成功しても、長期的には再発してしまうことも少なくないので、是非ともがん検診を受けていただきたいと思います。がんを早期に発見し、早期に手術しないことには、みなさんの健康長寿をまっとうするのは難しいのです。



栃木県南の佐野北部には、都市部の数倍の面積に及び広大な山間の無医地区が広がっています。5か所の僻地診療所では、自治医科大学卒の義務年限内の先生方を中心として、尊い医療奉仕がなされています。市民病院はへき地診療拠点病院として、5僻地診療所との間にさのまるネットを構築、日常診療の支援をしてみましたが、昨年の10月からは、医師の相互交換診療を始め、義務年限の先生方のスキルアップにも取り組んでいます。

民設民営と異なる公設民営と称される指定管理制度とは、土地の固定資産税、病院の建て替え費用、医学の進歩に合わせ新規購入を重ねざるを得ない大量の各種高額医療機器の更新費用などは市が負担し、医師やパラメディカルの経費は指定管理者が負担する仕組みです。勲力一心努力を重ねてきた結果、病院はここ数年、1億円/年のペースで経営改善が進んでいます。

ところで、佐野市民病院のA棟は築21年でまだ使用可能ですが、BC棟は築45年を経て、大雨では天井のみならず壁からの雨漏りが常時発生しており、震度6の地震では倒壊の危険があります。老朽化した病院の再建が急務であると考えます。

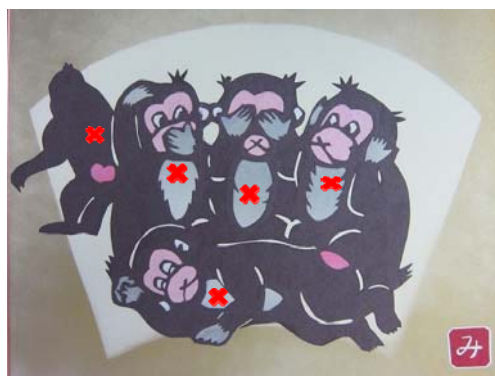
日光の三猿は、人の世を生きていく叡智として、徳川三代将軍家光が考えついたものと言われています。しかし、「見るべきものを見ず、聞こえているのに聞かないふりをし、言うべきことを言わない」のでは、組織の再生はできません。

組織が再生できる条件は、その逆で「まずは現場をつぶさに見て、周囲の話もよく聞き、言うべきことを言う」という三猿が必須ですが、それに加えて「対策をよく考え、自らやって見せる」という二猿を加えた五猿が重要なのではないのでしょうか。

なにはともあれ、職員一同、今後とも、「市民のみなさまから必要とされる価値のある病院」としてありたい所存ですので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



佐野の三猿
「見る猿、聞く猿、言う猿」



佐野の五猿
「佐野の三猿 + 考える猿、やる猿」

(作 旭館大女将 日野原ミヨ)

常勤医師紹介



こたけ けんじろう
固武 健二郎 医師 (慶應義塾大学出身)
(当院 顧問)

日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本大腸肛門病学会指導医・専門医



2016年6月から当院に勤務しています。神奈川県横浜市出身で、大学卒業後は東京や神奈川の病院で研修を行い、1986年に栃木県に移住して栃木県立がんセンター（宇都宮市）に30年間奉職してきました。

担当領域は消化器外科で、なかでも大腸疾患の診療と研究を専門としています。2008年からはがんセンター研究所長を兼任し、県のがん登録事業や遺伝性疾患の研究にも関わってきました。

この度は、定年退職を機に、当院にて消化器疾患を中心とする診療を担当させていただくことになりました。

培ってきた外科診療の経験をもとに、当地の皆様の健康増進に役立つよう努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

<外来診療日>
毎週木曜日の午前
(消化器科)

いのうえ すみお
井上 純雄 医師 (東京大学出身)
(当院 腎臓内科部長・透析室室長)

日本外科学会専門医
日本超音波医学会専門医
日本透析医学会正会員 日本腎臓学会正会員

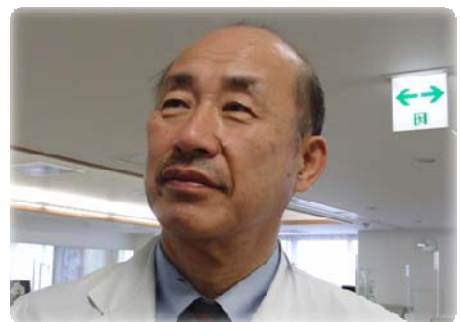
現院長の橋本大定先生にお誘いいただき、2016年9月半ばから赴任し人工透析と内科を担当することになりました、元外科医です。

今まで大学病院を含め5年以上の常勤医を務めたのは、東京神奈川の共済病院、虎ノ門病院と京都宇治市の宇治武田病院などで、主に腎不全関連の医療を担当してきました。

その間にはいくつかの透析施設や高齢者施設でも勤務してきましたので、昨今のような高齢者さんの増加にそれほど違和感はありません。ひとつには自分が既にそのゾーンに入っているからかもしれません。

人は皆「生病老死」というコースが必定と云われますが、正確には「生健病老死」でしょう。この中で医療は「生病」には日進月歩で貢献していると思いますが、「老死」については依然として非力です。

このような医療の役割、限界をしっかりと意識して医療に携わりたいと考えています。



<外来診療日>
毎週木曜日の午後 (腎臓病専門外来)





市民講座を開催します！



「前立腺がんのお話」

日時 2月23日(木) 16:00~
 会場 佐野市民病院 A棟5階研修室
 講師 前田 節夫 医師
 (当院 泌尿器科部長)

【お申込み・お問合せ】
 地域医療連携室
 ☎62-9024(直通)

増加している前立腺がんについて、基礎知識から
 治療法までわかりやすくお話します。

*毎月、当院の医師が講師となり市民講座を開催しております。
 受講料は無料です。
 みなさまのご参加をお待ちしております。



外来診療のご案内



＜受付時間＞ 午前8時～11時 : 午後1時～4時

＜診療科目＞ 内科／循環器内科／呼吸器内科／消化器内科／消化器外科／麻酔科／
 脳神経外科／小児科／婦人科／眼科／皮膚科／泌尿器科／
 耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／整形外科／放射線科／外科

＜休診日＞ 第2・4土曜日／日曜日／祝日
 (* 第1・3・5土曜日は、午前中のみ診療しております)

＜診療予定＞ 事前にお電話でお問合せください。

予告なく診療予定が変更になる場合がございます。事前にお電話等でご確認を
 お願いいたします。また、診療の予約、キャンセル、変更は下記の時間帯に
 お電話でお願いいたします。

お電話での受付時間 月曜日～金曜日 午後2時～5時30分

○糖尿病・腎センター○

＜診療日＞ 月曜日～土曜日(午前・午後)
 ＜休診日＞ 日曜日(*祝日は診療しております)



〒327-0317 栃木県佐野市田沼町1832番地1
 【TEL】0283(62)5111(代) 【FAX】0283(62)0811
 佐野市民病院Eメール sinsoumu@sanoshimin-hp.net
 佐野市民病院ホームページ http://www.sanoshimin-hp.net/